

8. 復興支援映画「天心」無料上映会

グループ名 たんぽぽの会

代表者 野中英美子

① 活動の目的

- ・綿毛を飛ばす（たんぽぽの花）のように優しい心で仲間を増やし、各自それぞれの自己実現と助け合いの心で、地域の活性化につなげてゆきたい。
- ・病院ボランティアを通して入院患者様やご家族様と地域の皆様に病院内での映画鑑賞会を提供したい。
- ・映画天心は 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災による大津波で北茨城市の五浦にある、「六角堂」は流出の被害にあいました。この建物は岡倉天心が思索にふけり、後に若い才能を育てた場所として貴重な登録文化遺産なのです。
- ・復興支援映画として、事務局や製作者の皆で 1 万人の人から 1 人 1 万円の寄付をいただくことにより制作されました。

岡倉天心は、明治の初期、廃仏希釈で寺が焼かれ、仏像が破壊される時フェノロサと共に伝統ある日本美術の保護に奔走し、法隆寺や興福寺を復興し、東京美術学校(現東京芸術大学)の校長に就任、日本美術院創立、横山大観、下村観山、菱田春草、ら若き才能の育成に尽力するも、西洋画派との対立により辞任し、北茨城市の五浦に六角堂をたて、ここに日本美術院を移転し、大観、春草、観山、木村武山らと、移り住み壮絶な創作活動に没頭した。日本人初のボストン美術館東洋部長に就任した。

② たんぽぽの会の仕事

- ・国立病院機構 霞ヶ浦医療センターでの、インホメーション（患者様・ご家族様の為お手伝、再来機・手続・代筆・案内など）カスミ文庫(院内10カ所に配置)整理と入れ替え・カスミ文庫室の図書管理)
- ・土浦養護学校生との地域交流会（オモチャで遊ぼう）
- ・少年施設 「 茨城学園 」へ毎年雑巾を送ることを通しての交流
- ・古切手収集（社教センター・図書館・社会保険事務所・他各自で収集）
- ・県内病院ボランティア間の交流会を通して研修につとめる。今年は当会が当番
- ・土浦市ボランティアサークル連絡協議会の1員として協力する。

映画 【天心】 の制作経緯と無料上映会決定の内容

8月 映画 天心のプロデューサー 星加氏 霞ヶ浦医療センター 会場を視察

結果 DVD でプロジェクター上映(5万円を予定)は無理とのこと。

理由は会場が広い事、映画そのものが、映像が暗いため画面が見えない

映写機上映では無料上映会でも30万位はかかるとの事ながら、会場に暗幕・スクリーン・椅子等完備でチラシは病院とたんぽぽの会で作成、配布を条件に、私達も

制作に協力した事を考慮頂き、城之内景子(作成委員会事務局長)の上映会ということで決定いたしました。

9月8日 霞ヶ浦 医療センター 講堂で 14時 ～ 16時 に決定

上映会の初めに野中より、公益財団法人 大同生命厚生事業団の補助受けた事を説明した。

霞ヶ浦医療センターの、院内報と 月1回発行の患者様・ご家族様のための新聞「かすみがうら」に掲載の一部をのせます。

『9月8日(火)、当院受付等で活躍していただいているボランティア「たんぼぼの会」のご支援ご協力により、患者様及び地域の皆様を対象とした上映会が行われました。ボランティアさんのお声かけもあって、当院の患者様だけでなく、初めて病院を訪れたというお客様も含め120人もの方にご来場いただきました。

今回の上映会には、機器なども本格的にそろえて頂き、会場は映画館さながらであり大盛況でした。

主人公となる、岡倉天心は、法隆寺や興福寺を復興し、東京美術学校、日本美術院創立に関わった後、日本人初のボストン美術館東洋部長に就任、日本近代美術の父といわれたかたです。晩年を本県北茨城市にて過ごしたため、県内でのロケもありました。

来場した皆様には、スクリーンにて身近な風景もお楽しみいただけましたと思います。』

茨城県五浦の天心の六角堂は2,011年の震災で流されましたが2013年復興致しました。

会場の写真は患者様達の肖像権の都合でお見せできないのは残念です。



病院玄関前の会場への案内 上

講堂前で、たんぼぼの会員と病院の庶務班長 下



「映画」天心のチラシ 支援 公益財団法人 大同生命厚生事業団 を表示



主催 ボランティアグループ たんぽぽの会 問合せ ☎029-831-5241
共催 独立行政法人国立病院機構 霞ヶ浦医療センター
支援 公益財団法人 大同生命厚生事業団 ・ 城之内景子 天心上映会
後援 土浦市社会福祉協議会

③ 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	80,000
支出	無料映画会「天心」上映代	100,000
	インクジェットカラーインク6色	5,477
	広報の為のA3コピー 10枚	1,000
	合 計	106,477